



Yonago East Weekly

「自分にチャレンジ！自分に奉仕！そして、ロータリーを楽しもう！」

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長/小谷維夫 ●幹事/永島清孝 ●会報/足立博俊

会員数86名

今週のお祝い

出席100%祝:2年 長谷川進君 5年 宮永誠治君
20年 井上賢明君

会長挨拶

皆さんこんにちは、いよいよ4月になりました、春となり桜も咲いて居ります。春になると世の中が何となく騒がしく、賑やかになります。何故なのでしょう。やはり年度が変わる、新年度が始まるからでしょうか。こどもの世界では、保育所・小中学校、高校とそれぞれで、入所式、入学式であります。教育の場では先生の移動、子供たちのクラス替えがあります。子供たちにとっては新しい友達との新たな生活が始まります。

一方、大人の社会では、事業所・会社で 昇進等を含めた人事異動、配置転換、新年度の年間目標設定、また新規事業等が始まります。子供も大人も、新年度を迎えて、気持ちを、気分を一新して 新しい1年に向かいます。

毎年度、気持ちを切り替えての新年度の繰り返しであります。日々の生活も自分自身もなにも大きく変わるわけではありません、しかしどう変わるかです。1年生は2年生に、2年生は3年生に。事業所では新入社員を迎えて新年度目標に向けて仕事が進みます。

新年度とは、区切りをつける事で、同じ事が継続していきますが、中身、内容の状況は時代と共に確実に、より良い、より優れた状況に置き換わってまいります。そうでないと世の中は発展しません。世の中には、いろいろな変わり方、変化の仕方があります。

我が米子東ロータリークラブも 4月、5月、6月を終えると、小谷年度から木美年度へと移行し何かが変わると思います。ロータリーの精神、時代に合わせて変えるべき処は変わり、変えてはならない核心部分は何も変わりません。それでこそロータリーであります。

幹事報告

1. 4/7米子中央RC創立20周年記念式典
2. 「ロータリーの友」読書率アンケートの報告
ガバナー月信4月号に一部抜粋掲載
3. 青少年交換派遣学生 大塚さんより「アメリカに留学して得た成果」報告書
4. 米子松蔭高等学校IAC バザー22,075円を米子市社会福祉協議会へ寄付
5. 例会変更のお知らせ
米子南 4/15(月) 休会(定款第6条)

倉吉 4/16(火)夜間例会 ビジター受付無
ビジター受付あり

今後の予定

- 4月14日 IM (倉吉未来中心)
- 4月17日 第5回家庭集会 (クスクス)
- 4月21日 大山春の一斉清掃
- 4月28日 地区協議会
(津山文化センター他)
- 5月 1日 休会(定款第6条)

- 4/10 「私の職業」 高田泰司会員
「 " 」 関 充宏会員
- 4/17 「我がゴルフ人生」
プロゴルファー 大山ゴルフクラブ支配人
平岩武則氏
- 4/24 「私の職業 拡大版」 横田政明会員



Peace Through service

奉仕を通じて平和を

< プログラム >

「ロータリー友紹介」

北 沢 薫 雑誌委員会リーダー



☆ RI会長(田中 作次)メッセージより、…(横書き1ページ)

様々な会合等々で田中会長は何度も「イチバン」という言葉を口にされますが、一体どのような意味なのか、というロータリーの職員との会話の話で、RI会長は次のように説明されました。イチバンの意味は「best」としか書かれていませんが、ロータリーでの「best」はほかの意味もあり、それは、あらゆる物事を、「超我の奉仕」の観点で見ることに、私たちが「いくらお金をかけたか」ではなく、「何をもたらすことができたか」に目を向けることを意味しています。この様に考えれば、もっと頑張ろう、という気持ちが湧いてきます。ロータリーの奉仕が「イチバン」となること、すなわち「奉仕を通じて平和を」築くため、できる限りの力を尽くすことが私たちの仕事なのです。

☆ よねやまだより “ありがとう、ロータリアン” …(横書き34ページ)

米山記念奨学会の支援で ホンジュラスから2004年に広島大学院生物圏科学研究所に留学生として

来日された、[エドナ・スヤパ・メヒア・ガルタメス]さんの、留学生活・又ホンジュラスに帰国されてからの活躍の紹介。

☆ 日本人のこころと復興 …(縦書き2～6ページ)

日本の「もてなし」、それが「独座独服」であり「出迎え三步 見送り七歩」。人と人との出会いが終わった後に始まる「もてなし」、「奉仕」、その根本にあるのが思いやりという。

宗教学者 山折 哲雄氏の2650地区 IM基調講演の要旨より。

「どらやきのまち米子とどらやき神社」

— どらやき地域のお役立ち —

鷲見 雄司 会員



4月4日はどらやきの日(4と4をあわせてしあわせ{4合わせ})ということで私どもの会社のPRを兼ねどらやきの日になんで少し紹介させていただきます。どらやき日本一の販売量でシェア10%で年間1億2000万個の生産をしている会社であります。「米子のまちをもっと元気にしたい！」をモットーに考え、そのためには、米子人ひとりひとりが、米子の良さを再発見し、自信と誇りを取り戻すことが出発点です。

米子には、たくさん魅力があるはず。例えば、丸京製菓の「どらやき」生産量は世界一です、「米子はどらやき生産量世界一のまち」なんです。これは私たちだけでなく、米子のみなさんと一緒に育ててきたものだと、私たちは考えています。どらやきのおいしさを引き出してくれる「氷温技術」、これも米子が誇る食品加工技術で、世界から注目を浴びています。環日本海経済圏交流を軸に自立の道を模索しています。このような中、丸京製菓のどらやきは、韓国・中国・台湾・といった東アジア諸国のみならず、アメリカ・オーストラリア・ヨーロッパへ輸出を拡大しています。

世界が「どらやき」を食べ始めました。そうしたこの地域の豊かな環境と、米子市民につくりあげてもらったものです。これも米子市民の誇りのひとつです。又、米子のすばらしき事の発信として「どらやき大使」として20名の米子市民の著名な方をお願いして活動して頂いております。

又、丸京製菓としての活動は、「丸京どらどら工場祭」として毎年2日間実施しています、昨年度は15,000人の来場者にお越し頂きまして賑やかなお祭として好評を頂いております。又、工場見学も年間100組を目標に計画しています。又、「どらどらパーク」としてのスポーツ競技場のネーミングもすでに4年になり、市民の皆様又、青少年のスポーツ振興に手助けさせて頂いております。

今回新たに、どらやき神社・どらやき大使館を丸京庵に4月1日にオープンさせて頂きました。

どらやき神社は パースポットとして活用して頂きたく、4礼4拍手(4あわせ)としてお参り下さい、又、大使館を丸京庵の2階にオープン致しました。

《どらやき》で米子のまちをみんなで 元気にしよう！！